

狂訓彙軌本紀

分七寸三
分二寸五

コ
テ

ヨ
ク

紙 表

分七寸二
分六寸三

コ
テ

ヨ
ク

梓亥本

彙軌本紀序

嘗者司馬仙人登龍門
撥禹穴與天下之豪傑
游作史記本紀方今島
田金谷入大門撥三階
與天下之通人游作彙
軌本紀彼唐人竊語也
此江戶本枝也彼松江
之鱸不如日本橋之初
鯉彼新豐之酒焉及隅

田川之諸白乎夫不窮
河源者未睹崑崙不飲
水道水者惡稱所謂大
通者乎中立而不倚通
哉通教訓而不仕彙軌
哉彙軌本紀之名本不
虛矣因染如左之序字
以冠于手拭之端云爾
天明甲辰松王正月
武部源藏高第四方

山人書初



彙軌本紀序

昔者司馬仙人ハ龍門ニ登リ。禹穴ヲ探リ。天下ノ豪傑ト游ン
 テ。史記本紀ヲ作ル。方今島田金谷ハ大門ニ入り。三階ヲ探リ。
 天下ノ通人ト游ンテ。彙軌本紀ヲ作ル。彼ハ唐人ノ竊語也。
 此ハ江戸ノ本枝也。彼ノ松江ノ鱸ハ日本橋ノ初鯉ニ如カズ。
 彼ノ新豊ノ酒ハ焉ゾ隅田川ノ諸白ニ及バン。夫レ河源ヲ窮メ
 ザル者ハ。未ダ崑崙ヲ睹ズ。水道ノ水ヲ飲マザル者ハ。惡ゾ
 所謂大通ナル者ト稱セン。中立シテ倚ラズ。通ナル哉。通タ
 リ。教訓シテ仕ラズ。彙軌ナル哉。彙軌タリ。本紀ノ名本ニ
 虚ナラズ。因テ如在ノ序ノ字ヲ染メテ。以テ手拭ノ端ニ冠ラ
 シムルト云フ

天明甲辰松王正月

武部源藏高第四方山人書キ初メ

景軌本紀序

一團之木持_{ハタキ}十_シ福_{フク}之屋_ヤ三分_{サンブ}
之金_{カネ}求_ム傾_ヒ城_{シロ}之美_ビ矣_ヤ嗚呼_{ウフ}
東都_{トウト}之盛_{セイ}告_ツ於_ニ以_テ言_ハ譽_{ホメ}之_ヲ
亦_モ宜_{ナリ}也_ヤ扶_ホ來_キ橋_{ハシ}之_ヲ魚_{イサ}鬻_ユ不_レ
遺_ス四_{ヨウ}時_ジ而_{シテ}靡_{ナク}一_{ヒト}匹_{ヒツ}青_{アヲ}樓_{ロウ}之_ヲ
娼_{カウ}妓_キ不_レ待_{マテ}以_テ河_{カハ}而_{シテ}靡_{ナク}一_{ヒト}人_ニ矣_ヤ
辱_ハ以_テ水_{ミヅ}道_{ミチ}之_ヲ水_{ミヅ}產_{サン}陽_{ヤウ}
自_{ヨリ}史_シ家_カ觀_ミ於_ニ輔_ホ而_{シテ}爲_ス岳_{ガク}之_ヲ
德_{トク}者_ハ則_モ維_ヒ新_{シン}之_ヲ四_{ヨウ}寶_{ホウ}於_ニ

引_ヒ爲_ス米_メ以_テ於_ニ息_ス子_シ株_カ平_{ヘイ}不_レ
可_レ不_レ鄉_{キョウ}食_シ也_ヤ老_{ロウ}子_シ曰_ク費_{ハイ}大_{ダイ}金_{キン}
若_シ遺_ス小_コ錢_{セン}是_レ東_{トウ}都_ト子_シ之_ヲ
所_ヲ踞_ク氣_キ情_{セイ}也_ヤ多_タ人_ニ島_{シマ}田_{デン}
金_{キン}谷_コ著_シ上_{ジョウ}景_{ケイ}軌_キ本_{ホン}紀_キ
一_{ヒト}卷_{クワン}緊_{キン}扶_フ於_ニ當_{トウ}時_ジ之_ヲ數_ス
從_リ聰_{ソウ}之_ヲ記_キ於_ニ西_{セイ}落_{ラク}以_テ誌_シ
序_{シヨ}之_ヲ余_ヨ亦_モ同_{ドウ}之_ヲ特_{トク}與_ヨ
應_{オウ}飲_{イン}山_{サン}之_ヲ亭_{テイ}鴉_カ俱_ク是_レ
繼_{ケイ}於_ニ空_{クウ}同_{ドウ}矣_ヤ

天明四甲辰歲孟春

口唐 出鳳臺 讓琰撰



彙軌本紀序

一園ノ木ハ千鈞ノ屋ヲ持チ。三分ノ金ハ傾城ノ美ナルヲ求ム。
 嗚呼東都ノ盛ナルヤ。言ヲ以テ之ヲ舉クルモ亦宜ナリ。扶桑
 橋ノ魚鱗ハ四時ヲ過ギズシテ一匹モ靡ク。青樓ノ娼妓ハ。九
 時ヲ待タズシテ一人モ靡シ。唇クモ水道ノ水ヲ以テ產湯ト
 ナシ。曳窓ヨリ鱗ヲ觀テ長リタルノ德ハ。則チ孰ニ之クト雖。
 何ソ引氣ヲ資ラン。況ヤ息子株ニ於テヲヤ。響テズンハアル
 ベカラズ。老子ノ曰ク。大金ヲ費スコト小錢ヲ遣フカ若シト。
 是東都子ノ氣情ヲ顯ス所ナリ。友人島田金谷。お彙軌本紀一
 卷ヲ著ス。槩ソ當時ノ繁ヲ扶シ。胞ニ泛ムノ洒落ヲ記ス。以
 テ之ニ序センコトヲ請フ。余モ亦同穴ノ猪。應ト欲込ミ山ノ
 寒鴉。俱ニ倥侗ヲ繼グニ足レリ。

天明四甲辰歲孟春

口唐 出鳳臺 讓琰撰

印 印

狂訓彙軌本紀

雲筑 島田金谷 纂輯

口唐 出 鳳臺 校訂

天照太神素盞鳴尊天津罪
を侵一たまひ一とを憎ませ
もまいて。天の岩戸と聞き隠れ
しやひ一う。天下やみももふ

り。八百萬の諸くみ神達

太神宮をすく一奉らん落ふ。
庭燎は焚神樂と奏一て舞
もふひく。岩戸ひ一ひきて
御覽一うと。世間ひく
人の面をみく。と見く。面白と
いふ。此何と起る。まゝ岩戸と知

目と。寝より目出度ふ

詞と。し。まると。齋藤俗談と

外正一と書ふ。載る所一と。今

流行の詞。日本とく。此と

より出る。此面白と目出度と

いふ。扶桑廣一とく

東都と止る。各一。おふ日本橋の

側奥店軒とある。四時とく

ら。日と千金と。高ひ。ゆり。かきん

百か。人の唐音ハ。怪子。呼ふ。先

舌と争ひ。杓松。魚。價。百貫と。と

遠近。飛。鯉。珠。王。子。擬。す

東西と走る。綱を諸侯と奉。一鯨

と下賤の食。と。買。よ。何。豚。販

食屋の廊下棒千搦ハ生簾鉈の
奥に集て妻子と嘗て人おほし
とて勢昇天の龍の如く二合
五々お酒を酔てを源ハと闘
争てなび親分を裁決と制しハ
雙方口を閉て止む和睦の河漏
ぬるまの異客前帯と殿敷あり
さんちくは焼灯を西國橋より
長く結太刀を梁より大あり
あんまのあん佛り大音ハ佛も
耳と寒れ六根清淨の職劇ハ
不動も送上すなく梵天万度
乃振や張込大太親分の流
義と傳ふ遠處延の間に先

却先時乃誤に言ふより通す
仙の字は手杖半顔とばれ紅お
輝きなり鬚る般若の面女の首
のや黒い髪長髪ハ仲間了地
あり柳傳ハ顔見世の積ね扇屋
が葉龍うんび一の空襟大路と山と
あ若者中より張れ帳屋ケ筆
跡と見事あり綴て手杖を
木戸錢とりする屯て手
槍子近隣の響音で鳴雷と何
もなる木戸番海老藏仕着と
留場をハのまう立花道と歩
行す杖敷り義人とするより
人中と割て山々手乃客とさる

あむ新小蒙る醜る疾癩あむ
張あむ口紅のまゝと失ふ。太夫
内簾の綿帽子を降積む雪う
と疑ふ。五間縋外黒仕立西落
止時あく心表るは羽屋う折南鏡
二片と以ぬ。まゝきの柏子木は
聚客色々と直し。願う口上さう々
郎へす。幕あけ下り葉う兵當の
箸を握る響の一聲吉原の角鬘
主殿う上瑠理を獅子う両る小異
あうす。立出る柿乃素袍悠くと
しう花道う至るを響る群
異口同音うしと積うと莖籠
乃山々響く。年々歳々やうやう

花柳似う。打驚く観役聴
て進むと能う守。さうやう金
巾袋う冠は天幸も五うとく
姫君の危難と救い奉る一刀の
下り首百汲と伐る大なる哉
東都の親王様所とさう八百
ハ街風来散人飛とを訴へて
彼う氣急を賞可。板遮昔時の
傑足下を今日の勇奇あう外
市川の藝術鳴呼はかもまう。獨
こふうて銀と鼓。偕う浪華は
客巧もつとて曰出る僕の
東都自慢を上る。我問と何う
堂世流行するよは。何くや。答

曰。其二と擧てゐる。三件繫親
 和染。初は糸とび色大各縞短脇
 差。長羽織因果地藏の富のれ。樂立
 城者。手打何偏。画舛帝西落木。金
 紐。笛吹。梅。女医者。主。西。一と
 豆藏の如し。亦向。今。華。不。歌
 事。行。東。都。を。識。く。を。答。曰
 四方赤良朱樂管。江。衣。橋。舛。平
 原屋東作。と。け。を。細。智。恵。の。四。子
 其外。所。常。て。か。け。へ。か。し。お。詔。讀。い
 解庵。獨庵。木犀庵。獅子殿。と。始。て
 是。ま。く。云。お。お。さ。さ。さ。寸。画。舛。帝。の
 作者。い。う。々。喜。三。春。町。い。は。全。文
 此。三。子。と。上。手。と。寸。上。階。理。の。力

ところ。鬼外先生没して後。紀の
 上太郎。在。冷。萬。衆。貫。四。揚。黛。鬼
 眼。と。さ。く。と。一。柄。在。吉。ハ。次。助。重。助
 事。助。馬。雲。河。竹。金。井。を。休。も。か。め
 云。お。お。お。を。浮。世。画。を。監。春。亭
 清。長。湖。龍。外。磨。向。と。名。い。へ。く。不
 有。と。く。料。理。家。を。食。撰
 と。お。お。と。所。標。三。件。屋。大。紋
 屋。葛。西。太。郎。と。大。黒。屋。浮。世。枕。流
 山。藤。庵。樂。庵。百。川。四。季。庵。の。四。季
 お。う。く。れ。献。主。と。善。於。一。美。お
 も。り。客。目。本。と。や。う。て。手。を。打。て。曰
 恐。ろ。あ。ま。さ。を。東。都。乃。盛。を。と。
 他。稱。の。乃。所。と。非。也。長。袖。袂。藤

夢錢能觀の大都。浪華の肩と
あゝふんとい虫のふた。甚な
か。願を先生。後。青樓の
曲を織。余故郷。陽。早
く重。僕。傳。再。東都。不
来。扇屋。天井。見。一
助。と。混。空。の。求。應。
烟草四五ぬくを食。又味。
嚙。曰。其。礫。而不。窺。玉。潤
者。知。驪。龍。之。所。蟠。也。お。水
道の流。を食。も。俗。中。の。交。
い。ま。通。の。あ。と。ま。と。ま。
す。余。長。命。一。世。の。形。勢。
を。見。多。母。の。胎。内。出。乳。

汁を食。お。城。様。と。多。
る。鳥。飼。羊。羹。と。甘。旦
暮。會。殘。魚。を。食。て。他。
止。時。不。下。稚。天。願。才。食。
を。乳。小。第。乳。母。結。立。乃
髪。を。む。声。四。越。と。驚。
跳。跳。跳。埃。す。千。代。大。
お。は。り。番。太。郎。下。稚。と。走。
一。む。長。松。ぬ。ぞ。一。と。鍾。の
天神。と。鼠。の。入。の。牝。双。帝。
を。取。来。坊。様。と。獻。す。二。品。と
授。出。是。で。ま。お。と。我。
こ。己。前。と。培。す。俵。頭。が。小。言。
終。と。自。身。と。人。形。丁。

到す。角か取の木俵を買ふ
俵、未^まくま^く切様小^{せう}款^くす。漸
寛^{かん}尔^にと^と赤の向^{むかひ}へ^へか^かを
長巻を相^{あひ}手^てと^と喜氣満
面^{めん}な^な。父母あ^あま^まを見^みて^て延
を流^{なが}。戯場事^{ぎやうじ}のさ^さや^やあ^あ
代^{だい}裏店^{うらみ}の噂^{うわさ}傳^{でん}ふ。答^{こた}へ^へ
と^と栗^{くり}腸^{ぢやう}の馬^{うま}け^け如^{ごと}く。父母是
を^を来^きし^し。又^{また}と^とを^を傳^{でん}ふ
戯劇^{ぎげき}と^とゆ^ゆ。葛^{くわ}渾^{こん}カ^カハ^ハを
の^の向^{むかひ}と^と塞^{ふさ}き^き画^え草^{そう}糸^{いと}長^{なが}持^{もち}ふ
餘^{あま}長^{なが}松^{しょう}買^{かひ}ふ^ふ錢^{せん}と^と掬^く
て^て餘^{あま}棒^{ぼう}と^とち^ちり^り大^{だい}轉^{てん}速^{そく}す
櫛^{くし}の下^{した}早^{はや}と^と至^{いた}る^る。湯^ゆ俵^{ばう}は

鼻^{はな}唄^{うた}。梅^{うめ}廣^{ひろ}り^り大^{だい}を^をけ^けて^てあ^ある^るハ
手^て下^{した}。伊^い之^の助^{すけ}か^かあ^ある^る。坊^{ぼく}様^{やう}の
御^ご氣^きり^り入^いる^る。傍^{はた}輩^{たひ}を^を必^{かならず}り^り
す。髪^{かみ}置^{おき}袴^{はかま}着^きる^るの御^ご祝^{いわい}儀^ぎ。大^{だい}丸^{まる}
越^こ後^ご屋^やと^と来^きる^る。錦^{にしん}繡^{しゅう}を^を南^{なん}へ^へ
定^{じやう}紋^{もん}を^を俗^{ぞく}あ^ある^ると^と篆^{せん}字^じの
壽^{じゆ}乃^の文^{ぶん}字^じを^を繼^{つぎ}せ^せ。當^{あた}日^{じつ}明^{めい}神^{しん}へ^へ
諧^{かい}す^す密^{みつ}に^に往^い来^{らい}乃^の評^{へう}判^{はん}と^とす^す
俵^{ばう}と^と味^{あじ}噌^{そう}を^を上^うる^る。火^かの^の具^ぐ
櫛^{くし}より^{より}高^{たか}く^く。乳^に母^ぼの^の鼻^{はな}天^{てん}狗^この^の
倍^{ばい}寸^{すん}ハ^ハ歳^{さい}の^の頃^{ころ}義^ぎ之^の流^{りゅう}の^の筆^{ひつ}道^{だう}
を^を学^{まな}ば^ばせ^せ。四^し書^{しよ}の^の素^そ讀^{どく}も^もす^すま^ま
さ^さ新^{しん}小^{せう}唐^{たう}詩^し選^{せん}と^と太^{たい}平^{へい}ち^ちり^り坊^{ぼく}
櫛^{くし}の^の幼^{よう}子^しハ^ハ西^{せい}風^{ふう}を^を吹^ふ散^{さん}。輕^{けい}

繁子未^らず。吉^つ且^つ那^なと稱^{なづ}ふ。髪^{かみ}ハ
 頭^{かぶ}上^{うへ}に曲^{まが}し。羽^は織^をを地^ちに拂^はく。毛^け
 長^{なが}く。貞^{まこと}讃^{ほめ}し。曰^{いは}。匪^ひ直^{ちやう}也^や。人^{ひと}秉^{もつ}
 心^{こころ}塞^{ふさ}。洲^{しう}と。野^の暮^{くれ}を。見^みる。こ。上^{うへ}
 野^の々^々。下^{した}谷^やと。見^みる。如^{ごと}く。然^{しか}を。
 千^{せん}家^かを。ま。つ。ひ。俳^{はい}諧^{かい}を。和^わ衆^{しゆ}街^{かい}の
 ま。つ。ひ。ま。つ。ひ。百^{ひやく}韻^{いん}一^{いつ}集^{しふ}も。せ。じ。
 ま。つ。ひ。も。幾^{いく}句^くを。諸^{しよ}集^{しふ}に。載^のせ。め。を。
 十^{じふ}有^{ゆう}五^ご。一^{いつ}を。そ。め。つ。油^{あぶら}出^で入^{いれ}の
 ト。趣^{しゆ}老^{らう}と。深^{ふか}川^{がは}の。土^{つち}橋^{はし}と。い。く。と。
 千^{せん}千^{せん}。律^{りつ}の。調^{てう}子^しと。衆^{しゆ}息^{そく}劇^{げき}する。
 こ。甚^{いた}く。娼^{やう}妓^ぎ役^{やく}者^{しや}と。面^{めん}す。
 け。衆^{しゆ}内^{ない}を。ま。つ。す。お。先^{さき}。つ。う。ま。
 お。く。と。三^{さん}年^{ねん}。牽^{けん}頭^{てう}持^ぢの。不^ふ可^か説^{せつ}

苦^{くる}ひ者^{もの}の。生^{なま}存^{ぞん}在^{ざい}。船^{ふね}頭^{かぶ}ハ。諸^{しよ}侯^{こう}
 乃^{すなは}く。客^{きやく}を。倍^{ばい}臣^{しん}と。等^{ひとし}しく。吉^きと。
 原^{はら}さん。と。舌^{しか}長^{なが}あり。お。て。う。さん。お。
 ま。り。さん。乃^{すなは}く。割^{わり}床^ど新^{あらた}川の。義^ぎ兵^{へい}衛^ゑ
 と。隣^{りん}り。す。終^{はつ}夜^や惡^{あく}口^{くち}乃^{すなは}く。卷^{まき}袖^{そで}銭^{せん}
 舌^{しか}く。口^{くち}説^{せつ}ある。宜^{よろ}華^かを。歌^{うた}歌^{うた}
 更^{さら}り。分^{ぶん}る。す。ハ。随^{ずい}づ。鐘^{かね}声^{こゑ}耳^{みみ}を。
 更^{さら}に。削^けく。形^{かたち}容^{よう}を。正^{ただ}し。深^{ふか}川^{がは}に。
 出^でて。さん。橋^{はし}と。ま。つ。バ。娼^{やう}妓^ぎ術^{じゆつ}術^{じゆつ}
 窓^{まど}り。す。吉^きさん。此^{こゝ}間^{かん}と。一^{いつ}の。一^{いつ}ふ。
 一^{いつ}の。言^{こと}を。對^{たい}。面^{めん}情^{じやう}ある。ふ。と。
 深^{ふか}く。い。り。早^{はや}ち。ある。深^{ふか}川^{がは}乃^{すなは}く。
 進^{すす}び。檜^{ひの}木^き薺^{なずな}臺^{たい}と。踏^{ふみ}す。ん。ハ。
 窓^{まど}り。す。薺^{なずな}と。魚^{うゑ}を。さ。す。と。謹^{きん}明^{めい}

一日知己相伴つて主膳様へ
至る中之御つて古妓画と
嚙つて洒落つてと数刻客と
具々相集り使ハ蘭爾東洲
五調嘉隆目吉藤兵衛等啞ハ
百とあり而大声笑語して盛
ゆ。茲小於す塊と。ウチ宿
替す。事終つて娼家に至り。穴
飛くる老女。婢姑と雛婦琴
と彈弦と鳴つて鐘中塵埃と
拂い。おーあんー馬鹿ーいの
廓言ハ十寸見く曲声と争い高
榎銀燭乃光々白盆乃おもく
並立ちし臺のそけい座より

島河らうと疑る食類を標三
坪屋が風流をまとい酒は清紫
乃下流を汲む。鏈手と鬘
五樽とあるは近僕を雛姑の
探索戒む。雪中綾羅乃三ツ
ゆらん。金屑ハ雪舟探幽と云
上あり。客小使者亦く傾城
鄙俗がく。濱御先生の筆意と
學び唐机と和漢の書を飾
王章怯く温く和く。さ
諸君伴頭雛妓小任す。調度用
物乃價とまふ。孔方ハ牧量も
あつた。是と性悪の奥様ハ
たふ。さて知る深川の夷狄

あるとゞ。只の人の異見とて曰。
傾城と誠あり。鶏卵の方ある
あり。若此両品ゆゑ。晦日の廻り
月々出るも。あま俗徒の談とて。
いと娼婦と真なるに證を又
する故あり。古語曰。臨困而義魚
不知退而結紲。これの真偽と論
ぜんなり。己々傾城とあるま
ば。あまと驚く金。又謂傾城
と誠とのゆゑ。運のたふ。能く
いへる。とて。伴頭を顧む。傾城
と疎く。傾城と親しく。とす。バ
家おさむ。とて。さうは。是れと
か。あま非也。非を非とす。非を

あま。傾城の誠心と見ゆ。あり。
商人の金を出し。る物を買。るも
錢の儲。ま。あり。其。ま。とて。
ふ。とて。ま。とて。是。とて。
鉦者と誠金。とて。は。とて。
最上。ま。とて。の。とて。智。とて。
愚。とて。とて。野。とて。
あま。何。とて。金。とて。
五。とて。能。とて。足。とて。行。とて。
つ。とて。の。とて。猪。とて。の。とて。
ま。とて。の。とて。の。とて。
ぬ。とて。の。とて。の。とて。
何。とて。の。とて。の。とて。
お。とて。の。とて。の。とて。

あゝと嘆—おまゝと見て見せ
こけこけ—その様、影、尺、世
乃、は、く、い、と、お、や、と、雷、も、暗、雷、ふ
驕、る、而、乃、も、小、身、上、散、く、磨、く、と
ある、忠、臣、ハ、退、き、臣、は、く、息、子
田、舎、と、熱、く、地、面、野、暮、と、被、令
各、胸、中、甚、高、く、入、る、と、蘇、秦、張、義
銭、欺、き、お、ま、周、公、呂、望、と、越、善
り、邪、正、暗、明、と、白、く、地、を、よ、く
知、れ、と、も、行、い、く、ち、と、言、う、人、今、り
も、非、也、武、士、化、し、と、宗、匠、と、も、あ、ま、
商人、へ、ん、と、居、候、と、ある、千、柳、が
前、句、と、曰、哉、人、ま、う、と、い、わ、く、り
あ、う、れ、く、相、あ、く、り、是、憎、れ、口

お、い、ま、と、止、ま、る、故、あり、先、人、等
藤、百、韻、と、作、る、尻、を、す、海、の、近、い
宝、井、大、通、山、入、と、ある、品、川、を、あ、く
ち、る、等、と、も、領、り、陸、者、より、起、る
奥、街、爺、老、役、—と、助、六、乃、初、日、寂
—く、大、山、代、衆、乃、咄、も、す、お、ま、功、成、
各、遂、に、身、退、く、輩、物、犯、の、油、の
香、と、ある、清、次、が、本、田、も、い、と、い、
昔、の、咄、と、ある、惜、哉、東、都、各、物、の
衰、と、ある、と、半、太、夫、お、く、お、あ、あ、れ
野、呂、間、再、創、る、土、佐、外、記、の、二、流、を
知、る、人、希、あり、願、き、夷、秋、乃、曲、と
遊、き、一、口、も、東、都、節、の、雅、言、び
ま、ある、如、—と、寒、夜、と、大、胆、と、脱、き

三件^い手^て機^きを^をも^もち^ち巻^まく^くて^てい^い
 う^う世^せ話^わと^と焼^や栗^りの^の杜^こ撰^{けん}の^の呵^かを^をと^と
 出^で栗^り直^ち栗^りの^のい^いん^ん誤^ご白^{はく}云^う爾^に

書本軌本紀跋

吾輩須とふ華人の詞

曰。居ハ新成橋。春画ハ情成

寫寸。凡大ハ天下

ニ。西京リ堂塔伽藍ナリ

浪ナリ交易運曹ナリ智恵

膽ナリ至テ東都と陳

とす。何國リ。や。吾友

島田金告子。具。江都の

中央。カ。生。り

おへ性根の七歩は進め。ほへ

野狐の七歩は退け。難陀が口

より。南無は吐。跋陀が口より

自慢。は。武藏野の。あ。腹

と。富士は山と。準。や。り

聰明。獻智。いの承知。生れ。り

る智恵の甲折。玄頭。未。たり

育られ。具。太。二。万。ふ。太。は。教

の。老。萌。り。ん。ん。あ。せ。放。庇。儒

り。誤。り。ん。ん。あ。せ。も。長。や。ぬ。智

惠の海、硯、水、龍、一、分、と、す、

墨、は、摺、れ、一、章、と、す、免、成、

角、を、龍、が、る、と、す、捨、く、

有、難、と、す、捨、ふ、人、ぐ、と、鶉、飲、

の、玉、川、龍、水、道、の、水、の、そ、れ、

と、ゆ、や、し、平、原、屋、東、作、筆、

と、酩、酊、の、中、と、揮、ふ、

天、明、之、癸、卯、歲、春、の、日、

と、ゆ、日、



彙軌本紀跋

孟晋須といふ華人の詞に曰。居は氣を移し春書は情を寫す
と。凡大なるもの天下に三ツ。西京に堂塔伽藍あり浪花に交
易運遣あり。智恵と膽氣とに至ては。東都を除てまた何國にあ
らんや。吾友島田金谷子。其江都の中央。ぎやつといふて生し
より前へ性根の七歩を進め。後へ野狐の七歩を退き。難陀が口
より洒落を吐。跋陀が口より自慢を吐。武藏野の原を腹とし。
富士の山を準とはり。聰明叡智。いさゝ承知。生れ付たる智恵
の甲折。牽頭末社に育られ。其丈三万三千丈。白髪のお翁に
うんと云せ。放屁儒に誤たかと。きめても盡せぬ智恵の海。
硯を轆せば一句となり。墨を摺れば一章となり。免成角なり
鶉。かしがましとて捨る人。有難とて捨ふ人。ぐつと鶉飲の玉
川。水道の水のそれ。ナンとやらと平原屋東作。筆を酩酊の
中に揮ふ

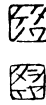
天明三癸卯歲春めでたき日



三十九

三十九 甲辰年

島田金谷述



自跋

清貧は常に樂しみ、濁富は常に患ふとは。往昔老夫山に柴刈、婆ま川に洗濯するの時代にして天びん棒上へそりたるの定矩にあわす。貧者は甘塩のさんまを貰し。富者は鯛のみそすを奇なりとせず。一斛の米に追れて腹中さひしく。百斛の美酒をくらつて寒夜をしらす。豈たのしみ貧者にあらんや。もし古語を當世にあつる時は。婆様山に柴刈。老夫川にせんだくし。桃太郎鬼が嶋へ渡つて。若衆にさるゝに及ぶべし。箱根からこつちに野暮稀にして銭儲からず。化もの出ずして怪談の書廢れたり。此二ツの外に至つて微なるものは何也。山吹の色事也。今予が著す榮記本紀は、全く鉦を進むるに非ず。かれを見。これを聞て以て。其しりのつまらざる事を諭し。此書を世界の息子たちに見せ。居候の難を免ん事を欲す。かせぐに追付貧乏なし。盡すに追付富貴なし。然りといへども。一槩に古風をしたわば。沉香はたかすして。屁を嗅のどんちやんあるべし。油斷すべからずと。まじめになつてしるす事しかり

天明甲辰歲孟旬

島田金谷述

タ
ケ
ノ

オ
ヤ
マ